

# わがまちづくり 交付団体の 活動を紹介します

町では、自由な発想のもとで住民自ら考え、自発的に地域の活性化に取り組む団体や自治会等に対して、その活動を支援する「岩美町わがまちづくり交付金」の制度を設けています。

今回は、地域の元気に役立ちたいと、「新聞づくり」に取り組んでいる陸上自治会の活動を紹介いたします。

## 心をつなぐ

### 新聞づくり事業

陸上自治会長 小山勝之進

くがみ新聞は、平成21年3月よりA4、2ページ、下のような様式で毎月発行、今年4月で26号。

21年6月、交付金事業に応募して認定され、パソコン、編集ソフト等を揃え、みんなで編集・作成できるようになりました。

## 読んで面白いものに…

新聞では、自治会の取り組みをオープンにして、情報を共有しながら、単なる自治会の連絡紙にとどまらず、地域の歴史や文化を掘り起こし、又、村をつくるのは人と「陸上のひと」をアップした企画など、これまで延べ183人のひとに登場してもらったなど、読んで楽しんでもらえるように努めてきました。

「みんなで作る、みんなの新聞」をモットーに続けていきたいです。

広報いわみのための特別号

自治会だより「くがみ新聞」

2011年4月1日

# くがみ新聞

4月のケーブルテレビで新聞のこと放映  
「トピックス」ぜひ見てな

## 村づくりに役立っていると評価

昨年の10月、「くがみ新聞」が20号となったのを機に、今後に向けて全世帯のアンケートを行った。回収率は70%で、全体的に読まれ、「役員会の中身を詳しく」との要望や、「おばあちゃんの知恵袋」等の企画案をいただいた。くがみ新聞は「村づくり」に役立つと思いますか？に対して、87%が「役立つ」の回答。そんなこともあり、この度、ケーブルテレビ「岩美町トピックス」で紹介されることになった。テレビでは、もう少し詳しく報告ができると思いますので、ぜひ、見て下さい。

## 広報 いわみ 版

特別号  
平成23年  
4月1日  
発行  
陸上自治会

## 新年号全国コンクールで 最優秀賞

くがみ新聞は、新年号全国機関紙コンクールDコースで、昨年に続き最優秀賞を受賞しました。

喜ばれる  
ふるさとの情報  
受賞おめでとうございませう。二年連続とは、誇らしいものです。発行号で「住みよい村」で始まった中の「へりへり」の言葉の思い出し、これから百歩と進んでほしい。神奈川に住む叔父にまとめて送った「くがみ新聞」。陸上の郷を思い、繰り返し読んでいくことです。（山中庸子）



東京芸術劇場での受賞式  
山中庸子さんの叔父、山中義彦さんに代理出席を依頼

## 岩美のひと

ケーブルテレビ制作担当 嬢  
田中裕子さん



室田さん  
ブルの同  
ケにて、[相棒]中満さんと

## 反応が嬉しい

小学生から「岩美チャンネルが面白い」と言われ、なんで？と聞くと、「知っている人をさがすのが楽しい」と。町内の話題や出来事を映像で紹介している「岩美町トピックス」。

の案内アナウンサー。今でも「カメラの前は緊張します」と、映像とは別人のような笑顔で応対。6カ月先輩の田中満さんと、これまでに180本位制作してきた。「見ているよ、作ってきた」「指摘をきく、良いものにしていきたいから」。好きな言葉は「花よりダンゴ」(笑)。(小西)

## あゆむ

新聞を作るコツは、よく聞かれる「省略と強調」と答える▼ネットの情報だと平坦になるが、新聞で配置や字の大きさ等の工夫をする、平面が立体化されて読みやすくなる▼そんな思いで「難しいことをやさしく、やさしいことを深く、より面白く」(井上ひさし)と努力してきた

▼受賞報告誌に、くがみ新聞について「こうした新聞づくりが広まることは、地域の過疎化にどう対応していくのかの、一つの有効な答えではないだろうか」と書いて頂いた▼新聞の発行が、人と地域を励ますことを、改めて実感している。(や)

## 〇月の役員会で話したこと 例 (〇月〇日)

- ◆東地区敬老会の準備と出し物について
  - ◆藻場の回復実験事業の対応について
- ※この件では、臨時総会を開いて、実施の承認を決めました。



このページは、広報担当の許可を得て、くがみ新聞編集部で、構成、レイアウト(配置)、入力、校正までさせて頂き、画像保存してお渡ししたものです。